

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 12月 21日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0172000887		
法人名	株式会社 尚進		
事業所名	グループホーム ふきのとう東館		
所在地	北海道小樽市桜町1丁目27番57号 (電話) 0134-54-7360		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年12月17日	評価確定日	平成20年12月25日

## 【情報提供票より】 (平成20年11月1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	17年10月1日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18 人
職員数	25 人	常勤23人, 非常勤 2人, 常勤換算12人

## (2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	43,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費:15,000円 暖房費(10~4月): 6,500円
敷金	有 ( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	月額	35,000 円	

## (4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	18名	男性 2名	女性 16名
要介護1	1名	要介護2	2名
要介護3	7名	要介護4	7名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均 85.55歳	最低 70歳	最高 102歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	西病院・済生会小樽病院・三ツ山病院・小野整形外科・たかむら歯科・常見医院
---------	--------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

3年前に新築した「グループホームふきのとう東館」は、小樽の街並みと石狩湾を見渡せる高台に位置している。敷地内には同一法人の3ユニットのホームが隣接しており、相互での交流が日常的にある。かかりつけ医との連携を密にし、必要に応じ訪問診療、訪問看護を入れて、医療ニーズの高い利用者も安心して暮らしができるような体制を整えている。地域のイベントや小、中学校の行事に参加する一方、ボランティア訪問による多種の催しがある。ホーム祭りには市民との交流を積極的に作り、地域の一市民としての暮らしを支えている。利用者は晩酌を楽しみ、馴染みの美容室へ出かけ、職員と一緒に映画を観に行くなど、その意向を尊重し対応している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回、取り組み事項とされた内容を再確認し、真摯に取り組んでいる。地域との関わりを深め、日々の生活面で利用者の要望をくみ取り、職員は利用者の力を引き出し支えている。現在、避難訓練実施に向けて進めているところである。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価では役職者が中心に、項目ごとに話し合ったものをまとめた。それらをミーティングで話し合い、日頃の業務を見直すとともに改善に向け生かしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議ではホームの運営状況や行事、自己評価、外部評価の結果などを報告し、事業所の地域貢献として、認知症サポーター養成講座の開催を話し合っている。市へは月に数回出かけて担当者との情報交換をしている。利用者の経済的な負担の相談等、個別な話し合いもして、市との連携を深めるように努めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	「ふきのとう通信」を毎月発行し、全体的な行事と、個人の暮らしや健康状態などを詳細に載せ送っている。遠方の家族には電話で連絡を密にしており、ホームページにも個人情報に配慮し、分かりやすく載せている。家族の来訪時には意見や要望を聞き出し、意見や苦情などは記録しミーティングなどで話し合った上、その都度改善している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域のイベントに出かけて、踊り、琴、マジックなどを観覧したり、ボランティア訪問による多種の楽しみがある。小学校の運動会、学芸会や中学校の文化祭に参加し、また、ホーム玄関前の「雪明かり雪像」には中学生の協力もある。ホームの「ふきのとう夏祭り」には、近所の子供たちが集まるなど、利用者はそれぞれの交流を楽しんでいる。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	個人の尊厳が守られ、地域の一市民として慣れ親しんだ当たり前の生活を支援する、ということの基本方針にして事業所独自の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	パンフレットやホームページに理念を載せ、また、ホームの居間にも掲示し周知している。職員はミーティングで日々の対応や介護計画などを話し合い、その折に触れて確認している。名刺の裏にも理念を記し意識化するよう努めている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のイベントに出かけ、踊り、琴、マジックなどを観覧し、ボランティア訪問による多種の楽しみがある。小学校の運動会、学芸会や中学校の文化祭に参加し、また、ホーム玄関前の「雪明かり雪像」には中学生の協力もある。ホームの「ふきのとう夏祭り」には、近所の子供たちが集まるなど、利用者はそれぞれの交流を楽しんでいる。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価では役職にある職員が中心に、項目ごとに話し合ったものをまとめた。それらをミーティングで話し合い、改善が必要なところは実行シケアに生かしている。前回の外部評価の結果も話し合い、積極的に取り組みを進めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では家族、地域包括支援センター職員、町内会の役員が参加し、ホームの運営状況や行事、自己評価、外部評価結果等の報告をしている。事業所の地域貢献として、認知症サポーター養成講座の開催を話し合っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は書類提出などの機会を多くし、月に数回は出かけて市の担当者と情報交換をしている。利用者の経済的な負担の相談等、個別な話し合いもして、市の担当者との連携を深めるように努めている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	「ふきのとう通信」を毎月発行し、全体的な行事と、個人の暮らしや健康状態などを詳細に載せ、金銭出納帳の記録を添えて送っている。遠方の家族には電話で連絡を密にしており、ホームページにも個人情報に配慮し、分かりやすく載せている。	○	職員の採用や異動、離職など、家族も情報を共有する手立てとして、報告への工夫を期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	報告や確認する内容のメモを常備し、もれなく家族の来訪時に職員が対応できるように工夫し、その際に意見や要望を聞き出すようにしている。意見や苦情などは記録しミーティングなどで話し合い運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動は、最小限にしている。利用者に影響がないように馴染みの関係に配慮し、離職も抑えるように努めている。職員の事情で離職がある時は、心配に配慮し利用者には説明をしていないが挨拶をして辞める職員もいる。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員の知識やケアの向上と、外で刺激を受ける良い機会となるので、外部研修を積極的に進めている。月に数回以上の研修に、職員のレベルに応じて参加させ、業務の必要に応じて費用を負担している。職員は研修内容を共有し、法人内部の合同研修にも参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小樽市の「グループホーム連絡協議会」、札幌の「民間介護協議会」の勉強会や交流会に職員も参加し情報を交換している。札幌のグループホームから講師を招きたいきさつで、職員が見学に出かけたり、また、同市にある法人の小規模多機能型事業所とも交流し日々の業務に役立てている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に可能な限り本人の見学を勧め、ホーム側も訪問し、納得して入居できるように進めている。入居後は家族の協力を得ながら、利用者の状況に合わせて外出、散歩、買い物などで気分転換を図り、徐々に環境に馴染めるよう個別に対応している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が得意とする布巾縫い、花を活けるなどを手伝ってくれる。また、利用者の何気ない言葉や仕草で慰められることもある。テレビの話題を利用者に教えて貰い、一緒に観て共に過ごす時間を作るようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のシートに、利用者が言葉にしたことを書き留め、思いを把握するようにしている。何度も繰り返すことを利用者の要望として、ミーティングで話し合い、介護計画にも載せている。また、一言に注意し表情や仕草から要望を汲みとるようにしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	新規作成の場合は、介護支援専門員が家族から生活歴や今までの生活習慣などについて情報を収集している。本人、家族の意向、医療機関からの診療情報などを踏まえてミーティングで話し合い、1ヶ月の暫定計画を作成している。介護計画は、本人、家族に説明をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直し以外に月1回のカンファレンスで利用者の様子を話し合っている。カンファレンス中に偶然、家族の来訪があり参加してもらったことがある。退院時や認知症状の変化、転倒の危険性がある場合などは、随時、介護計画の見直しを行っている。今後は、家族に職員会議の日程を知らせて参加できる態勢を整えたいと考えている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問看護や訪問往診を利用し、本人の心身の負担となる通院を回避し、かかりつけ医の通院介助を行っている。一人ひとりの希望に応じて、映画鑑賞、美容室、理容室、買物などの送迎支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	サービス利用契約時に、かかりつけ医への継続受診を優先することを説明している。かかりつけ医がない場合には協力医療機関への受診としている。通院は家族の協力を依頼しているが事業所でも介助を行っている。その場合は、受診後、電話で家族に報告をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	運営規定に「重度化における対応」を記載している。利用者、家族の希望により医療機関と連携し終末までの介護を行うことを説明、書面で確認をしている。心身の状態に応じて、その都度話し合いを行っており、終末期が近づいた場合は、職員の研修を実施していきたいと考えている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員をリビングパートナーとして位置づけ、個人の尊厳を護るケアを行っている。居室のポータブルトイレを使う時は、入り口の戸を閉める、外出時は留置カテーテルの蓄尿袋にカバーを掛ける、脱衣室で服を脱ぐなどを心がけている。面会簿はノートを使用し、記録類はリビングの机に並べている。	○	面会簿や業務の記録などの個人情報の取り扱いを工夫することで、プライバシーを護ることができるよう、期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の過ごし方について希望を表現する利用者は少ないが、そのような希望がある時は、事務職員が対応することもある。晩酌を楽しんだり、馴染みの美容室へ出かけたり、職員が同行して映画を観に行くなど一人ひとりのペースを尊重している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	運営母体の他事業所の管理栄養士が献立を作成し、配達された食材を専用の厨房で調理員が調理している。各ユニットに台所があり、ご飯を炊く、味噌汁を作る、副食を作るなどしており、盛り付けや食器洗いなどを一緒に行っている。本人の食べる力を見極め、必要に応じて介助をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、午後から入浴をしている。一人週2回を目標としているが、拒否のある人には、職員や入浴日を変更するなどして対応している。入浴後に好物を食べる、入浴後の血圧を測るなどの言葉かけに工夫をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お正月にはお花を活ける、春はプランターに植える苗の監督をする、カラオケで歌を唄う、映画を観に行くなど一人ひとりの力を活かした役割や楽しみごとを持つことができるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	玄関とリビングが一つのフロアにあり、外出し易い構造となっている。天候の良い時期は、車いすを使っている利用者も一緒に玄関の前のベンチに座って日光浴を楽しんでいる。ホームの正面に公園があり散歩に出かけている。坂道の多い地域のため冬季の外出は車を使っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	リビングから玄関を見渡すことができるので、日中は施錠していない。玄関の横に台所があり、チャイムを設置しているので外出を把握することができる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、職員が消防センターで行われている災害訓練に参加している。その内容を伝達講習し、職員の自主的な訓練を行っている。運営推進会議で地域の協力について理解を得ているが利用者参加の実際の避難訓練は、実施していない。	○	災害時に速やかに避難することができるよう、実際の避難訓練を行うことを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を作成し、栄養のバランスや摂取カロリー、栄養素を管理している。全利用者の1日の食事量、水分量を記録し、水分は、食事以外に1000～1500mlを目標としている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2つのユニットは職員食堂を通過して行き来できる構造となっている。各々のユニットのリビングの窓からは、小樽の街並みと石狩湾を眺めることができる。壁に理念や自己評価、外部評価を掲示し、利用者や職員、来訪者の目に触れるようにしている。日めくりや行事の写真、クリスマスの飾りなどで季節感を採り入れている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、クローゼットや暖房機が備え付けとなっており、仏壇や箆筒、テレビ、ベットなど馴染みのものが置かれている。重度化している利用者も多く、ポータブルトイレや車いす、紙おむつなども用意してある。「1日の過ごし方」の表が各居室に掲示してある。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。